

## エージレスのサイズを決める

必要な時間内に容器内を確実に脱酸素状態にするために、どのサイズのエージレスが適しているかを決めます。

### エージレスのサイズとは

基準となる公称酸素吸収量を $ml$ で表した数字が“サイズ”です。

例えば〈SA-100〉の場合は

SA = 自力反応型のエージレスで

100 = 1個で100 $ml$ の酸素を、脱酸素日数(1日)以内に吸収する能力があります(25℃)。

### 容器内酸素量の計算方法

$$\text{容器内酸素} = \left[ \text{容器全体の体積}(ml) - \frac{\text{中味の重さ}(g)}{\text{商品の密度}(g/ml)} \right] \times 0.21$$

(空気中の酸素の割合)

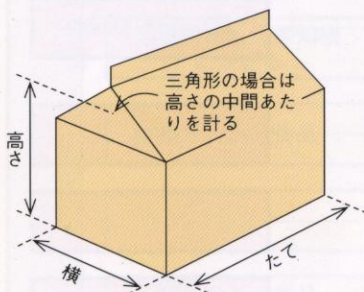
- 容器内の空気量は、容器全体の体積から中味商品の体積を引いたものです。
- 密度は1 $ml$ 当たりの重量で、一般的には食品の密度は1 $g/ml$ とみなして概算できます。

#### ● 密度1 $g/ml$ 以外で計算する食品例

餅1.2 / 穀類1.4 / 羊羹・ういろう1.3 / 生麺1.2など  
金属類の場合は固有の密度を適用します。

### 実際的なサイズの選び方

① ほぼ直方体に近い形の容器の場合、たて×横×高さを計り、次のように計算します。



例)

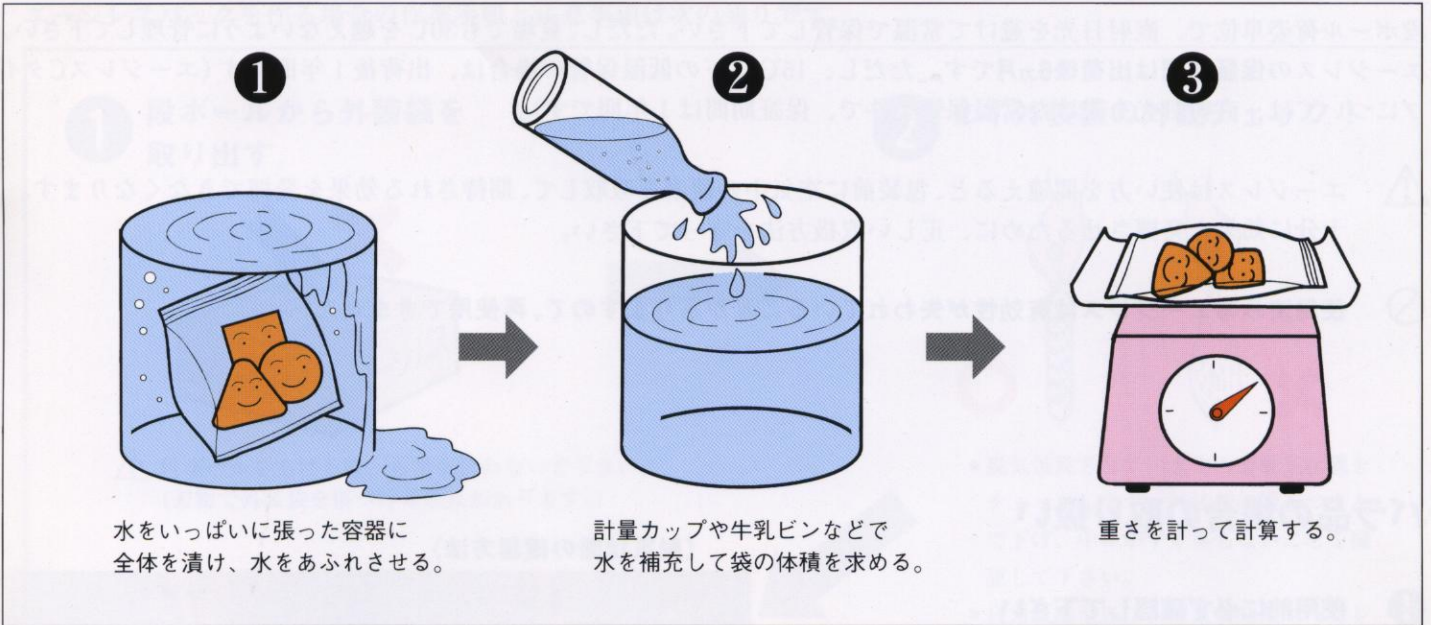
たて15cm、横10cm、高さ10cmの左図のような容器に  
重さ600gの食品(密度1 $g/ml$ )を入れる場合

$$\text{酸素量} = \left[ (15 \times 10 \times 10) - \frac{600}{1} \right] \times 0.21 = 189ml$$

容 器 の 体 積    中 味 の 重 さ / 密 度    酸 素 の 割 合

従って、やや大きめで一番近いサイズ200を選びます。

②不定型の容器の場合、下図の様な方法で容器の体積を計り、酸素量を計算してサイズを選びます。



例)

補充した水の量 900ml、商品の重さ500g、密度1g/mlの場合

$$\text{酸素量} = \left( 900 - \frac{500}{1} \right) \times 0.21 = 84\text{ml}$$

エージレスのサイズは100を選びます。